

【方向性1】学校部活動としての活動量の見直し

子どもの活動に対する満足度をあげる

多様な志向に応える

生涯スポーツにつなげる

教職員の働き方改革

【中学生アンケートから】

- ✓ 現在の学校部活動に肯定的な意見（とても満足・やや満足）の生徒の割合は“9割”。
一方で、学校生活の中で困難やストレスを感じる生徒の割合は“4割”
- ✓ 平日の部活動の日数⇒ガイドラインを超える「5日」が“3割”、「2時間半以上」が“3割”
- ✓ 「部活動+学校以外の習い事」で“960h/年”の活動量
(注) 部活動に所属する3,324名の1週当たり平均値×50週 (参考) 年間標準授業時数 1015時間
- ✓ 睡眠時間が6時間以下の生徒が“36%” ⇔ (推奨睡眠時間8h30min)
- ✓ 部活動の活動量が今より減ったら⇒他の活動に「参加したい」が“3割”、「参加しない」が“4割”
⇒「自由に過ごしたい」が上位、「自主練習したい」が“26%”
- ✓ 活動内容について「全く自分たちで決めていない」生徒が“2割” ⇔ 「決めたい生徒」は“4割以上”
- ✓ 「卒業後、同じ競技（活動）を続けたい」と回答した生徒は“4割” (注) 中学3年のみ抽出の場合も同様の傾向

【第1回会議での意見】

「教育的視点を引き継ぐことが重要」「練習量が正義との発想からの脱却」「生涯スポーツの視点が重要」
「時間外指導への教員の意識変化への対応が必要」

本市の地域展開の方向性（素案）について

【方向性2】多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化

【方向性3】“地域型クラブ”の立ち上げ・運営に対する支援

多様なスポーツ・文化活動の機会の確保

子どもたちの志向に応じ、主体的に“知る”“選択できる”環境の創出

【中学生アンケートより】

- ✓ 部活動所属生徒も未所属生徒も“5割”が「別の学校の生徒と活動してみたい」と回答
- ✓ 「部活動の活動量が減ったら、地域クラブに参加したい」と回答した生徒は“3割”
(注) 部活動所属・未所属ともに同様の傾向
- ✓ 「専門的で丁寧な指導」、「やりたい種目が選択できる」、「健康への配慮」、「気軽に楽しめる」等、スポーツ・文化活動へのニーズは多様
- ✓ 「地域にクラブに参加したい」と回答した生徒の多くが「今の学校部活動にはない活動（種目）」を希望

【第1回会議での意見】

「競技力向上に加えて、裾野を広げる活動でも協力」「練習場所の確保に苦勞」「施設利用の利便性改善が必要」
「多様なニーズに対応しながら専門的な指導をしている指導者の声を生かしたい」

学校部活動

- ・平日4日、土日のうち1日
- ・主に教員（+部活動指導員・外部指導者）
- ・部費（保護者会）
- ・志向の混在（競技力向上/楽しく）

民間クラブ等

- ・活動日数等はクラブ裁量
- ・専門性のある指導者
- ・市場原理に基づく対価
- ・志向に応じた活動

未加入

当事者である子どもたちの声から

部活動の
「地域展開」

学校部活動としての活動量の見直し

多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化

“地域型クラブ”の立ち上げ・運営に対する支援

多様なスポーツ・文化活動の機会の確保

教職員の働き方改革

子どもたちの志向に応じ、主体的に“知る”“選択できる”環境

学校部活動

- ・活動量の見直し
- ・活動内容の見直し

地域“型”クラブ

- ・モデル事業の検証
 - 施設・用具利用
 - 指導者・団体登録
 - 受益者負担の在り方

民間クラブ等

志向・ニーズに応じた
多様な活動の場

体験型イベント等

民間・協会等が主催する
様々な体験機会の提供
/情報発信